

# 野鳥撃退にレーザー

## ドローンで鳥インフル対策



クルナムーブで照射するドローン  
(千葉市で)

NTTイー・ドローンとNTT東日本千葉事業部は、千葉県と連携して、忌避レーザーを搭載したドローンによる高病原性鳥インフル

エンザ対策を進めている。レーザーを照射することでカラスなどの野鳥を遠ざけ、同病を防ぐ狙い。

使うのはNTTグループ

ープが手がけた鳥獣害対策ドローン「BB102」で、地域総研が研究開発・製造した「クルナムーブ」というレーザーを照射する装置を搭載している。レーザーは赤と緑の光がランダムに照射され、鳥獣の目に当てて追い払う。カラスの他にも鹿やイノシシ、鳩、ハクビシンなどで効果が実証されており、ちらつきを生じさせて慣れを防ぐ。ドローンは自動航行

でき、レーザー部分は左右に動き広範囲の照射が可能だ。価格は本体、バッテリー、講習料などを含めおよそ300万円。10月から販売を開始している。

10月に千葉市で行ったデモフライトでは、参加した県内の養鶏業者から「これだけの対策で足りると思わな

養鶏場に寄らなくなった。1カ月後は数羽が養鶏場にいた程度で持続性も期待できるとい

ろ。(中村敦信)

神奈川県での実証実験では、1カ月に8日間、1日当たり2時間飛ばすことでカラスが

公式ウェブ  
動画掲載

